

令和元年度水戸市下水道事業会計決算審査意見書

第1 審査の種類

地方公営企業法第30条第2項に基づく決算審査

第2 審査の対象

1 決算書類

- (1) 令和元年度水戸市下水道事業決算報告書
- (2) 財務諸表
令和元年度水戸市下水道事業損益計算書
令和元年度水戸市下水道事業剰余金計算書
令和元年度水戸市下水道事業剰余金処分計算書
令和元年度水戸市下水道事業貸借対照表

2 決算付属書類

- (1) 令和元年度水戸市下水道事業報告書
- (2) 令和元年度水戸市下水道事業キャッシュ・フロー計算書
- (3) 収益費用明細書
- (4) 固定資産明細書
- (5) 企業債明細書

第3 審査の期間

令和2年6月5日から同年8月6日まで

第4 審査の実施内容等

審査に当たっては、水戸市監査基準（令和2年水戸市監査委員告示第1号）にのっとり、決算書類その他関係書類は関係法令に準拠して作成しているか、計数は正確であるか並びに予算の執行及び事業の経営管理は適正かつ効率的に行われているかについて関係諸帳簿等と照合を行うとともに、7月1日には、監査委員室において関係職員から説明を聴取し、定期監査及び例月出納検査の資料も活用して審査を実施した。

第5 審査の結果

決算書類及び決算付属書類は、関係法令に定める様式に準拠して作成されており、その計数は、関係諸帳簿等と符合しており正確であることを認めた。また、予算の執行及び事業の経営管理は、良好に行われていると認めた。

第6 決算の概要

1 業務実績

当年度末の処理区域内人口は214,768人、水洗化人口は187,687人となり、前年度と比較して処理区域内人口は760人（0.4%）、水洗化人口は1,735人（0.9%）それぞれ増加している。処理区域内人口に対する水洗化率は87.4%となり、前年度と比較して0.5ポイント上昇している。また、一日平均処理水量は79,148m³、年間処理水量は28,968,328m³となり、前年度と比較して一日平均処理水量は1,369m³（1.8%）、年間処理水量は579,006m³（2.0%）それぞれ増加している。

2 経営成績

総収益は8,892,462,146円となり、前年度と比較して153,168,758円（1.8%）増加している。これは、下水道使用料の増などにより営業収益が75,724,644円（1.9%）増加したことや、一般会計からの負担金の増などにより営業外収益が77,444,114円（1.6%）増加したことによるものである。

総費用は8,586,769,330円となり、前年度と比較して40,772,299円（0.5%）減少している。これは、地方公営企業法の全部適用により生じた本庁舎維持管理負担金、上下水道事業管理者給与負担金などに伴う総係費の増などにより営業費用が69,771,697円（1.0%）増加したが、支払利息の減などにより営業外費用が111,984,018円（6.9%）減少したことなどによるものである。

この結果、当年度純利益は305,692,816円となり、前年度と比較して193,941,057円（173.5%）増加している。

3 財政状況

資産合計は160,059,376,367円となり、前年度と比較して1,394,995,056円（0.9%）減少している。これは、現金預金の増などにより流動資産が33,188,455円（1.6%）増加したが、減価償却に伴う構築物の減などにより固定資産が1,428,183,511円（0.9%）減少したことによるものである。

負債合計は132,565,199,468円となり、前年度と比較して2,373,837,972円（1.8%）減少している。これは、一般会計負担金長期前受金の増などにより繰延収益が253,950,214円（0.5%）増加したが、企業債の減により固定負債が2,689,885,638円（3.6%）減少したことなどによるものである。

また、固定負債及び流動負債に計上された企業債は、当年度の発行額が元金償還額を下回ったため、前年度と比較して2,684,585,184円（3.4%）減少し、76,841,630,157円となっている。

資本金と剰余金を合わせた資本合計は27,494,176,899円となり、前年度と比較して978,842,916円（3.7%）増加している。これは、繰入資本金の増などにより資本金が776,113,759円（3.1%）増加したことなどによるものである。

なお、短期的な支払い能力を示す流動比率は32.6%となり、前年度と比較して0.2ポイント上昇している。これは、未払金の増などにより流動負債が62,097,452円（1.0%）増加したが、現金預金の増などにより流動資産が33,188,455円（1.6%）増加したことによるものである。

4 資金状況

業務活動によるキャッシュ・フローは3,961,944,297円のプラス、投資活動によるキャッシュ・フローは1,916,498,325円のマイナス、財務活動によるキャッシュ・フローは2,020,223,184円のマイナスとなっている。

この結果、資金増加額は25,222,788円となり、資金期末残高は1,679,543,185円となっている。

業務活動によるキャッシュ・フローはプラスであり、投資活動及び財務活動によるキャッシュ・フローはマイナスであることから、業務活動によって得た資金を活用して、投資活動や企業債の償還などの財務活動が行われていることがうかがえる。

第7 意見

平成28年度に策定した「水戸市下水道事業経営戦略」に基づき、当年度においても、企業債未償還残高及び一般会計からの繰入金の縮減を図りながら、計画的な施設の整備に加え、施設の適切な維持管理等に組み込んだところである。今後も引き続き、次の事項に留意しながら、健全な企業経営に努められたい。

1 未収金の縮減について

下水道使用料及び下水道事業受益者負担金の未収金については、前年度と比較して約6百万円減少し、約4億6千万円となった。しかしながら、依然として多額であるため、滞納初期段階における速やかな未収金の回収に取り組むとともに、受益者負担の公平・公正性確保の観点からも、滞納者の実態に応じて積極的に滞納処分を実施し、引き続き未収金の縮減に努められたい。

2 施設等の適切な管理について

施設全体の長期的な状態を予測しながら、点検・調査や改築・修繕を一体的に捉え、計画的かつ効率的に管理するために、当年度に長期的なストックマネジメント計画を策定したところであり、令和2年度には当該計画に基づく5年間の短期的な改築等の実施計画を策定する予定である。今後においては、財源確保の見通しを踏まえながら、実施計画に基づく効率的な施設等の管理に努められたい。

なお、ストックマネジメントを実施するに当たっては、固定資産台帳等に基づく施設情報の収集や整理による現状の把握が前提となり、さらに、固定資産台帳は、正確な財務諸表を作成し、経営情報を把握する上でも必要不可欠なものであることから、固定資産台帳の管理体制の強化を図り、引き続き適切な資産管理に努められたい。

3 一般会計からの繰入金について

一般会計からの繰入金総額は約50億円となり、前年度と比較して約7千万円減少しているものの、そのうち、国の定める繰出基準に基づかない基準外繰入金は約12億円となっている。

公営企業は独立採算制を経営の基本原則としていることから、一般会計からの基準外繰入金の算定方法について、一定の方針を策定するなど算定基準の明確化を図り、適切な運用に努められたい。

4 経営の健全化について

今後の下水道事業を展望すると、人口減少により下水道使用料の大幅な増加が望めない一方で、施設等の適切な管理に多額の費用が必要となることが見込まれ、経営状況は一層厳しさを増すことが想定される。当年度に地方公営企業法の全部適用を行い、水道事業との組織統合により公営企業として経営の合理化に努めているところであるが、これまで以上に経営の効率化を推進するとともに、経営戦略に基づく取組の検証と改善を図りながら、中長期的な視点に立った健全な企業経営に努められたい。